

聴覚障害者の精神保健福祉を考える研修会

制度の枠を超えた実践

ふれあいの里・どんぐり
施設長 佐藤 喜宜

① 施設の紹介

『ふれあいの里・どんぐり』を作る会

- ・建設運動のスタート
- ・1991年⇒通算270回を超える街頭募金活動
- ・1996年⇒『ふれあいの里・どんぐり』開所



山本おさむ著「どんぐりの家」より

障害者支援施設 『ふれあいの里・どんぐり』



ろう重複障害者 (ふれあいの里・どんぐり)について

- 1996年
重度身体障害者入所授産施設として開所
- 施設入所支援
定員50名(男性25名、女性25名)
- 生活介護事業 定員63名
- ショートステイ 定員4名(男性2名、女性2名)

② Aさんの事例

Aさんの背景と課題

- ・ろう学校卒業後、銀行勤務でコミュニケーションの困難さで悩む
- ・宗教団体でのトラブルで人間不信となり、引きこもり状態になる
- ・網膜色素変性症により全盲になる。

どんぐりの支援

- ・毎月1回の自宅訪問、外出の機会を提供
- ・昼食を食べながら興味のある話題でコミュニケーションを促す。
- ・お姉さんと協力し、父親亡き後のAさん将来について話し合う。



③ 今後の課題と 実践の重要性

課題

- 定期的な訪問と情報共有に人的な余裕と経済的な支援が必要
- 障害福祉制度では対応しきれないケースの方が多い
- 事例のような実践を継続するためには共有された理念が重要

実践の重要性

- ・Aさんのような地域で孤立した方への支援に対応できる
- ・職員の訪問により安心感と希望を提供
- ・実践を誇りに持ち、今後も継続していく必要がある